

# 徳泉寺報

とくほ

No.0010

発行  
平成30年8月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区  
榴岡3-10-3

(022) 297-4248

## お盆に寄せて

仙台ではお盆は八月。もともと遠方にお住まいの方は七夕祭りに合わせて帰仙されることも多く、八月に入ると境内墓地がにぎやかになってきます。また十一日が「山の日」に制定されてからは十一日にお墓参りをされる方がずいぶん増えたように感じます。特にお墓をお守りされている本家の方々は親戚縁者がお参りに来るより前に、お掃除などにいらっしやるため、早め早めに行動されるのでしょうか。

仙台に嫁いで初めて迎えたお盆で一番びっくりしたことは、おびただしい数のお供え花がお墓にあげられていたことでした。私が生まれ育った土地では供花は本家の方があげるのが一般的でしたので、お墓にあふれんばかりの花束を見て（さすが仙台藩、伊達者の街だなあ）と妙に感心したことを覚えています。そして花いっぱいのお墓は、亡くなった方を大切に思っただけでいらっしやる気持ちの表れのような気がして心が温かくなったものです。

実際、毎年欠かさず早朝から遅くまで時間を作ってお参りにいらっしやる方々のご様子を拝見して、境内に住みながらなかなか足を向けられない自分の身を反省させられます。お墓に手を合わせるということとは、死者を弔い慕うとともに、自分のルーツに思いを馳せ、今ある自分の足元を確認する作業でもあるのだなあと家族総出でお墓参りされているみなさまの様子を見ていつも感じます。

## お盆の迎え方（徳泉寺の場合）

それぞれのお宅でそれぞれのお盆のお迎えの仕方があると思います。徳泉寺ではまず、八月上旬になると同朋会の有志の方を中心に「お磨き」を行います。これは本堂のお飾りの仏器を磨いて汚れを落とす作業です。中には大正時代から伝わっているものもありますが、ピカピカに磨かれると時代を感じさせない美しさで輝きます。今年はいにく台風が来てしまい、お手伝いいただけませんでしたので、寺の者だけで行いました。また、境内には多くの樹木が植えてあり、この木々もお盆を前に剪定され、さっぱりとします。

本堂の荘厳（しようごん）もお盆用にしつらえます。お供物、打敷（うちしき）・・・これは本尊の前机に飾る敷物のことです。のほかにお盆には「切り灯籠（きりことろう）」と呼ばれる灯籠を本堂余間に飾ります。この灯籠は和紙でできており、他の宗派ではなかなか見ることのできない珍しい灯籠です。お仏花やお仏飯も普段より少し改まった形にしてお盆をお迎えし、みなさまがご本尊に手を合わせる準備をします。

暑い夏のお墓参りですが、ご先祖のお参り同様に、ご本尊にも手を合わせ、仏の願いを聞く場としていただけたらと思います。



切り子灯籠（右）



花いっぱい境内墓地



お磨きしてピカピカ（左）